

9/8(木)

【分科会 7】ピア活動が切り開く地域移行・地域定着支援

一本松小太郎こと谷健次・和田正博（地域活動支援センターすみれ）／小林喜代美（はたの援護寮）
西野暁(たぬき)（相談支援センターゆいまーる）／沼田和祥、佐竹隆嗣（帯広生活支援センター）
佐藤晃一・三石麻友美（やどかり情報館）
コーディネーター：古屋龍太・大島巖・道明章乃（日本社会事業大学）

分科会 7 は会場びっしり！満員御礼でスタートしました。

まずはコーディネーターから、ピアの力が存分に発揮されるためにこの分科会を発信の場とする趣旨とともに、ピア活動の全国的な状況について報告を行いました。地域移行・地域定着支援事業を進めている全国の事業所では、ピアサポーターがどんな支援を担っているのか、その立場は？ 事業所の多くがピアサポート体制の拡充を望んでいるにも関わらず、まだまだその拡がりには難しさがあることなどをお伝えしてバトンタッチ。

引き続き、ピア活動が積極的に行われている 4 事業所のスタッフとピアサポーターからご報告をいただきました。事業所の紹介にはじまり、ピア活動の経緯や概要、そして日頃ピアサポーターとして活動する中での思いまでをぎゅっと凝縮して語って下さいました。報告者と参加者が非常に近い会場で、報告者の率直な言葉、明確なメッセージが送り出されました。そのメッセージを受け取った会場から、「賛成！」の声と拍手が起こる場面もあり、どんどん雰囲気は熱くなっていったように感じられました。

初の試みとして…。

参加者の皆さん全員が語って、聞いて、持ち帰ることができるように…。

今年は、グループに分かれての意見交換の場を設けました。それぞれ報告者を囲むグループが 9 つ。もちろんグループ構成はさまざま。ピアサポーターとして活動している方の多いグループ、悩めるスタッフが大半を占めるグループ、所属を名乗ったばかりに行政担当者として要望を一身に受けているグループなど、話される内容も、またさまざまです。狭い会場にたくさんの人。そんな会場と同じく、中身のいっぱいしまった時間にしていただけたのではないかと思います。

病院という日常とあまりにもかけ離れた場所に、ピア活動がどれだけのインパクトを与えることができるでしょうか。蓄積される経験をどのように伝え合うことができるでしょうか。来年もこの分科会がメッセージを分かち合い、力にして発信できる場になればと願っています。

ご報告、ご参加いただきました皆さま、関係者の皆さま、ありがとうございました。

《道明章乃（日本社会事業大学）》